令和2年度 学校評価書

学校名（東温市立上林小学校）

1 学校の教育目標 自己をひらき、ともに学び、たくましく伸びゆく、上林っ子の育成

2 経営の基本方針 “ふるさと上林” に生きる自分に誇りと自信をもち、「人・もの・こと」との関わり合いを通して、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。

令和3年2月10日

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	○ いじめを許さない毅然とした指導と、適切な教育相談等を通じた不登校への予防的取組ができた。	3.7	3.7	3.7	○ 生活アンケート、教育相談等を通して「いじめは、どの学校にもどの学級にも起こりうる」との認識のもと全教職員が情報交換を密にし、いじめの防止、早期発見早期解決に努めている。また、些細なトラブルでも保護者と連絡を取り合うことで、共に子どもたちを育てていく体制が整っている。 ○ 基本的生活習慣の定着については、児童と教職員や保護者との評価に差がある。 ● いじめ・不登校等への対応、望ましい行動様式について、はっきりと「いじめを予防している」「実態に応じた生徒指導ができてい」と答えられるように学校での取組を家庭へ伝える工夫とそう思われるように指導を継続する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは、あいさつ等の評価が児童と教員及び保護者との間で差が出ている。大人の立場から見ると少し不満があるのかもしれない。 些細なことから始まるのがいじめ。児童の小さな変化を見逃さないでほしい。上林小でいじめはないものと思えるが、学校ではあらゆる事態を想定して対応していただきたい。
	基本的生活習慣の定着	○ 気持ちのよい挨拶や、正しい名前呼び方、時と場、相手に合った言葉遣いをしようとする態度を育てることができた。	3.4	3.9	3.4		
	望ましい行動様式	○ 生活目標・安全目標に基づいて、指導の重点化を意識して指導を行った。	3.6	3.7	3.7		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	○ 学習意欲の喚起と個に応じたきめ細かな指導の充実により、基礎・基本を定着させることができた。	3.7	3.9	3.8	○ 少人数のため、一人一人の学習状況を適切に把握した上で個に応じた指導をするとともに、積極的な ICT 機器の活用で、児童は、「分かる・できる・楽しい」と喜びを感じながら意欲的に学習に取り組むことができています。また、毎朝の読書習慣が確実に身に付いており、集会等での発表では、豊かな表現ができています。 ○ 地域ぐるみで教育活動を理解し、支えていただける環境にあるものの、体験学習や全校で行う活動の機会が例年より減少した。 ● 家庭学習の取組に個人差が見られる。個に応じた課題を与えるなど、保護者と連携を図りつつ、家庭学習の充実を努める。 ● 地域と連携した学習の在り方を学校協働活動の中で検討し、働き方改革を推進するとともに教育効果の最大化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 少人数がゆえに児童一人一人の能力や性格等を十分に把握しながら、ICT機器の活用を含め、きめ細かな指導教育が実践されている。児童の理解度評価の高さは、そのことを表している。 本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で体験学習も減少したと推測される。対策を講じていろいろな体験学習の機会を増やしていただきたい。 保護者アンケートの評価で、早寝・早起き・朝ごはん等の項目が前年度より下降している。児童だけでなく保護者にも地道な指導や啓発活動をお願いしたい。 互いに認め合い、協力し、助け合う人間関係をつくる上で、道徳教育や人権・同和教育は大切な学習である。保護者は、学校の取組を高く評価しており、児童も協力やルールを守ることなどが十分できているとしている。学校の日頃の地道な取組の成果の一つである。 特別支援教育については、欠点を補うのではなく、長所を生かしてほしい。 防災教育等は十分できていると思うが、家庭、学校、地域で、起こり得る危険な出来事を共有し児童の命を守るため何をすべきか常に連携をとる意識が大切だ。危険予知で登下校及び学校内の危険に対する感受性を高めればよい。 コロナ禍において、地域行事は中止されているが、今後とも地域との関係は良好であってほしい。運動会や学芸会を観覧することができ、児童の元気な姿や教職員との一体感などが感じられた。 米づくりやサツマイモづくり等、上林の自然を感じる体験を今後も続けてもらいたい。また、コミュニティスクールの設置に伴い、児童の希望を取り入れた新たな取組にも期待する。
	ICTを活用した授業改善	○ ICT 機器を有効に活用し、「分かる・できる・楽しい」授業への改善に取り組んだ。	3.7	4.0	3.9		
	読書活動の推進	○ 読書を通して、言葉を学び、感性や表現力、創造力を豊かなものにするため、読書環境の整備に努めた。	3.5	3.9	3.9		
	家庭学習の充実	○ 「家庭学習の手引き」を有効に活用し、家庭の協力を得ながら指導に当たった。	3.4	3.9	3.4		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	○ 道徳の授業の充実や、実践に結びつく道徳教育・人権教育に教育課程全体を通して取り組んだ。	3.9	3.9	3.8	○ 「スピーチタイム」など、一人一人の発言が保証される場を設けている。道徳の授業で互いの気持ちを交流する活動を充実させることができた。人権学習参観日で意欲的に発言する児童の姿は地域や保護者から大いに評価された。また、上級生が下級生を思いやり、下級生が上級生を慕う言動が取れており、継続した異年齢集団活動の取組が人間関係づくりにも良い影響を与えている。 ○ 水泳学習の中止等、体力づくりに費やす時間の低下が運動能力の低下につながる懸念される。「なわとびチャレンジマップ」に挑戦することで、目当てを持って運動に取り組ませている。 ● スマホやゲーム機器等の使用方法に問題があり、生活リズムが崩れている児童がいる。長時間使用が及ぼす様々な影響について親子で学ぶ機会を関係機関の協力を得ながら実施するようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターを中心に児童一人一人のよさを認めながら、そのよさが伸長できるよう、教職員間の情報共有と授業実践の充実を努める。 ○ 感染予防に配慮しながら、避難訓練の充実を努めた。 ○ 校区の安全点検を実施し、危険個所の把握に努めた。また、登下校の見守り活動を継続するとともに休み時間の見守りを強化することで児童の命を守るという教職員の意識が高まった。 ● 本年度は、土砂災害警戒情報の発出に伴い、避難所が開設された。行政主体の対応だったため、総合防災訓練を契機として、児童の安全確保について、地域・保護者・学校が連携した自主防災組織の対応ができるよう体制を整えたい。 ○ 保護者、地域の方々に体験活動の意義を理解していただき、運動会や学芸会等、地域の方々との交流の場があることにより、地域にある施設の拠点としての役割を果たすことができた。 ● 保護者、地域の思いを尊重しつつ、より教育効果の高い行事、体験活動の実施方法を検討し継続・発展させる。 ● ホームページの情報発信の在り方を検討し、保護者、地域の求める情報が何かを検討しながらコンテンツの充実を図る。 ○ 地域の様々な活動を担う区会議員、地域と学校をつなぐ校務員、諸活動における保護者の協力により、「ふるさと上林」の自然に学ぶ活動を本年度も実施することができた。 ● 本年度の活動実績を基に、児童が主体となった取組や場の設定を加えていく。 ○ 校舎内外の丁寧な清掃と安全点検を心掛けるなど、よりよい環境づくりに努め、修繕箇所は早期に対応できた。また、季節や行事との関連、個を大切にした掲示に心掛けた。 ● 保護者の参観機会が減ったことから、放課後の学校参観、ホームページによる情報発信等、作品鑑賞ができる機会を設ける。
	仲間づくり・集団づくり	○ 相手の気持ちを理解し、互いに認め合い、協力し、助け合う人間関係づくりを推進した。	4.0	3.9	3.7		
	健康づくり・体力づくり	○ 早寝早起き朝ごはん、うがいや手洗い、歯磨き等の習慣を身に付けさせるとともに、児童の体力についての現状や課題を把握し、体力向上に関する指導を推進した。	3.9	3.7	3.2		
特別支援教育	特別支援教育の充実	○ 授業のユニバーサルデザイン化を図るなど、特別支援教育の趣旨を生かしたよく分かる授業展開に努めた。	3.6	3.7	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭・地域・関係諸機関との連携による登下校の安全確保や不審者対策を実施し、安全で安心できる学校づくりができた。 ○ 防災マニュアルを策定し、日々の教育実践に役立てるなど、「みんなの命をみんなで守る」「自分の命を自分で守る」児童の育成に努めた。 ○ 安全点検の徹底による潜在危険箇所の早期発見・完全除去及び防災・防犯につながる備えの確認をした。 	
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	○ 家庭・地域・関係諸機関との連携による登下校の安全確保や不審者対策を実施し、安全で安心できる学校づくりができた。	3.8	3.9	3.8		
	防災教育の充実	○ 防災マニュアルを策定し、日々の教育実践に役立てるなど、「みんなの命をみんなで守る」「自分の命を自分で守る」児童の育成に努めた。	3.8	3.9	3.9		
	施設・設備の安全管理	○ 安全点検の徹底による潜在危険箇所の早期発見・完全除去及び防災・防犯につながる備えの確認をした。	3.9	3.9	3.7		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	○ 地域の人材を講師として活用したり、運動会、学芸会、教育キャンプ等の行事運営を PTA や地域と協力して行ったりするなど、地域に開かれた教育活動を推進した。	3.5	3.9	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者、地域の方々に体験活動の意義を理解していただき、運動会や学芸会等、地域の方々との交流の場があることにより、地域にある施設の拠点としての役割を果たすことができた。 ● 保護者、地域の思いを尊重しつつ、より教育効果の高い行事、体験活動の実施方法を検討し継続・発展させる。 ● ホームページの情報発信の在り方を検討し、保護者、地域の求める情報が何かを検討しながらコンテンツの充実を図る。 	
	情報の共有化	○ 学校だより（学年だより）、ホームページを工夫・充実し、保護者に児童の様子や学校の方針を理解してもらえよう努めた。	3.3	3.9	3.9		
特色ある学校づくり	緑の少年団	○ 緑の少年団活動への効果的な指導を通して、地域の美しく豊かな自然環境を守ろうとする態度を養うことができた。	3.5	3.9	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校舎内外の丁寧な清掃と安全点検を心掛けるなど、よりよい環境づくりに努め、修繕箇所は早期に対応できた。また、季節や行事との関連、個を大切にした掲示に心掛けた。 ● 保護者の参観機会が減ったことから、放課後の学校参観、ホームページによる情報発信等、作品鑑賞ができる機会を設ける。 	
	栽培活動	○ 植物や野菜等の栽培活動を充実させ、自然を愛護し、自他の生命を大切にしていこう態度を育てることができた。	3.4	3.9	3.9		
施設・設備の充実	施設・設備の効果的な活用	○ 教育効果を高める環境整備と施設・設備・備品の有効活用を行った。	3.9	3.9	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校舎内外の丁寧な清掃と安全点検を心掛けるなど、よりよい環境づくりに努め、修繕箇所は早期に対応できた。また、季節や行事との関連、個を大切にした掲示に心掛けた。 ● 保護者の参観機会が減ったことから、放課後の学校参観、ホームページによる情報発信等、作品鑑賞ができる機会を設ける。 	
	学習・生活環境充実への取組	○ 一人一人を大切にしたい掲示や安らぎと潤いのある環境づくりに努めた。	3.9	3.9	3.8		